

メキシコ日本語教師会シンポジウム

「ピア・ラーニング（協働学習）による日本語学習活動のデザインと実際」報告書

報告者：岩田夏穂

講師：池田玲子（東京海洋大学） 補佐：岩田夏穂（大月短期大学）

日時：2013年3月1日~3日

場所：日墨協会日本語教室（メキシコシティ、メキシコ）

◆シンポジウムの概要

国際交流基金の「さくら中核事業」助成を受け、メキシコ日本語教師会によって開催された日本語教育シンポジウムにて、池田玲子先生が3日間の講義およびワークショップを行いました。私、岩田も一部担当しました。

期間中はお天気に恵まれ、この時期のメキシコシティでは珍しく、暑いぐらいの陽気でした。120人を超えるメキシコ人、日本人の日本語教育関係者の方々に参加していただき、太陽の光に負けないぐらい熱気あふれる3日間となりました。



メキシコ日本語教師会会長の三上京子先生と池田玲子先生



◆講義Ⅰ「ピア・ラーニングの学習観と授業実践」（1日目前半）

講義Ⅰの狙いは、現場での実践をふり返り、ピア・ラーニングの授業実践がどのような言語学習観に基づいているのかを理解してもらうことです。参加された方々に自分がどのような言語教育観、学習観を持って日々の実践をしているかを振り返ってもらいました。続いて、ピア・ラーニングの活動のメリットとデメリットを確認しました。メリットとしては、「いい雰囲気になる」「友だちになれる」「一人じゃ考えられないことも考えられる」、デメリットとしては、「楽しいだけでいいのだろうか」「話し合いが脱線する」「参加のし方がバラバラになる」等が出ました。

その後、ピア・ラーニングの理論的背景の講義があり、続くワークでは、ピア・ラーニングがどのような学習観に基づいているのかを、従来の読解の授業活動とピア・ラーニングの考え方によってデザインされた授業活動を比較することで実感してもらいました。

◆講義Ⅱ「ピア・レスポンスとは」（1日目後半）

講義Ⅱでは、実際に学習者の書いた作文を添削して、時として、教師は、文面から学習者の言いたいことを把握できていないということを体験しました。池田先生の楽しいエピソードを通して、学習者同士のピア・レスポンスでは、互いに相手のことを教師以上に知っているのも、相手が何を言おうとしているのかをすぐに理解できるというメリットがあることが紹介されました。

続いて、自分の書いた作文を互いに読み合い、コメントや質問をし合うピア・レスポンスの活動を通して、ピア・ラーニングの目指すところを実感する活動をしました。会場では、作文のストーリー展開の斬新さ、面白さに、あちこちから爆笑や拍手が起こっていました。

ピア・レスポンスは、教師添削よりも推敲に効果があること、何よりも学習者が積極的に文章作成に取り組むようになります。しかし、教師添削は、決して不要なものではありません。まとめでは、教師添削をどのように配置すべきか等、ピア・レスポンスを取り入れた授業デザインの留意点が示されました。



◆講義Ⅲ「会話の展開に着目したコミュニケーション教育の活動デザイン」（2日目前半）

2日目の前半は私が担当しました。アイスブレイクの後、会話の授業について考えました。まず、現場の観察から、会話の上手な学習者のイメージを思い描いてもらい、従来の授業ではあまり重要視され

てこなかった「会話の展開」と「母語の利用」に注目することを提案しました。参加者のみなさんに、スペイン語と日本語の会話のやり方の違いを聞いてみたところ、スペイン語では、とにかく早く発話の順番を取るのが普通なので、スペイン語が堪能な日本人も、なかなか話に入るのは難しい等、いろいろなエピソードがでました。

その後、私たちが無意識に行っている会話のやり方を目に見える形で記述するのに有効な「会話分析」の手法と、その知見に基づいて作成した教材の内容を紹介しました。その教材は、まず、スムーズに展開していない会話のスキットがあり、学習者は、それを検討するようになっています。講義Ⅲの後半では、グループでこの問題の起きているスキットを作成する活動をしました。倦怠期の夫婦のような会話、何を聞いても生返事が返って来る会話など、傑作ぞろいでした。

◆講義Ⅳ 「日本語授業デザインの実際」 (2日目後半)

講義Ⅳでは、まず、ミニ講義でピア・ラーニング授業の特徴と意義を確認した後、ピア・ラーニング授業に適した学習課題として、4コマ漫画を使った学習活動を体験するワークを行いました。ピア・ラーニングを取り入れた教室活動のデザインでは、アイス・ブレイキング→プレ活動→本活動→ふり返りが基本的な展開となります。この流れに沿った学習活動を、素材として4コマ漫画を使ってやってみるとどうなるかを体験しました。4コマ漫画の活動では、学習者がストーリー展開をどのように理解するかもわかりませんし、やり取りの展開がどうなるかも、予想しきれません。ワークを通して、ピア・ラーニングの活動のデザインでは、いかにその場で新しいものが創造されるか、対話を促す課題設定になっているか、個々のメンバーの力が出せるようになっているか、といった点がポイントになることを確認しました。



さらに、授業デザインの事例紹介では、対話的問題提起学習の実践例が取り上げられ、身の回りにあるさまざまな事象、体験も素晴らしい素材になりうることを示されました。

◆講義Ⅴ 「ピア・ラーニングのためのコースデザインと授業デザインのポイント」 (3日目)



最終日は、これまでの成果を踏まえたグループディスカッションとポスター作成をしました。初めに、昨日の後半から参加者をお願いしておいた「これまでの講義やワークショップの体験を通して感じたピア・ラーニングの実践に対する疑問等を付箋に書く」の貼りだしの結果をこちらでグループ分けしました(写真左)。これを見ると、やり方や進め方に関心が高いことがうかがわれます。この意見や疑問に、池田先生がフィードバックをしました。

ポスター作成では、前日に、素材として利用可能なものには、自分の体験やエピソード、写真や絵、新聞や雑誌の記事、漫画、広告等があることを伝え、各自で心づもりをしてきてもらいました。当日、グループに分かれてディスカッションし、ピア・ラーニングの基本展開に沿った活動デザインを模造紙1枚のポスターに仕上げます。みなさん、ものすごい集中力で、どんどん作業を進めていました。出来上がったポスターの数々は、いずれもこんな短時間で仕上げたとはおもえない素晴らしいさでした。残念ながら、ちょっと時間切れで、互いにコメントし合うところ



までできなかったのですが、終わりに池田先生がひとつずつ簡単に内容を紹介しまして、熱い3日間のシンポジウムは終了しました。その後、解散してからも、参加者のみなさ

んは、各々じっくりポスターを見て、付箋にコメントを書いて貼っていました。



◆シンポジウムを終えて（池田先生の講評より）

まず、参加人数に驚きました。当初 60～70 人だと言われていましたが、メキシコ日本語教師会の会員の方は、ほぼ全員が参加したのではないのでしょうか。みなさんのピア・ラーニングに対する関心の高さを実感しました。そして、メキシコ人の教師と日本人の教師がほぼ半分ずつという、理想的なメンバー構成でした。また、若い先生方も多くいらして、20代から70代までと幅広い年齢層で、男性の参加者が多かったのも印象的でした。



講義やワークショップ全体を通して、みなさんが、日頃から熱心に教室デザインや活動の組み立てに取り組んでいらっしゃることに、ピア・ラーニングの実践に、非常に期待していらっしゃるのことが分かりました。ピア・ラーニング未経験の方から、すでに、ピア・ラーニングの授業を本や事前の勉強会などから得た知識をもとにやってみた方までいらして、みなさん、多様な背景、経験をもって参加されていました。

ワークショップでの活動へは、休憩時間を惜しんで作業するほどの集中力で、熱心に取り組んでいらっしゃいました。最終日、ポスターを作成する講義Vでは、最初から机をワークショップで作業しやすい状態にしておいたのですが、すでに講義開始前から活動が始まっていて、驚きました。ポスター作成では、こちらが用意した素材だけでなく、各自で探してきた写真や記事をととても上手に利用していました。また、それまでの活動での成果を効果的に発展させたもの、アイスブレイキングの内容をうまく本活動につなげて作られたものもあり、素晴らしい出来栄でした。

シンポジウムが終わってから、参加者の方からいろいろコメントをいただきました。今までの授業実践を振り返って、ぜひやってみたいという方が多くいらっしゃいました。ベテランの先生に、「自分の授業についての課題に気付いた」と言われ、うれしく思いました。また、若い世代の先生からは、すぐにでもピア・ラーニングの活動に取りかかりたい、明日からの授業が待ち遠しいという声も聞かれました。別の先生は、教案は、その筋書き通りに学習者を動かすものではなく、スポーツでいえば、コーチが作るトレーニングの大枠のメニューのようなものではないかということに思い至ったとコメントしてくださいました。選手（学習者）は、そのメニューに沿って、協力しながら課題を遂行するというところで、これは、言語学習におけるピア・ラーニングをご自分の経験に照らし合わせて得た、素敵な気づきだと思います。

すぐにピア・ラーニングにつなげられるかどうかは、それまでの各先生方ご実践の内容にも関係しています。しかし、今回のシンポジウムを通して、自分のやってきたことに自分自身が揺さぶりをかけて、もっと変化できる可能性に気付いた、というのは大きな意義があると思います。

今回のシンポジウムは、参加してくださった皆様のご協力により本当に充実した素晴らしいものとなりました。最後になりましたが、準備から開催期間中、きめ細かくフォローしてくださった、三上会長をはじめとするメキシコ日本語教師会のスタッフの皆様へ深く感謝いたします。



三上会長、参加者の方と記念撮影